

## 日韓共同理工系学部留学生に対する日本語グループワークの実践

佐藤尚子・馬場眞知子・佐藤礼子・門倉正美・金井勇人・笠原（竹田）ゆう子

### 要旨

埼玉大学、千葉大学、電気通信大学、東京工業大学、東京農工大学、横浜国立大学の6大学は、2009年度後期の予備教育期間中に、日韓共同理工系学部留学生第10期生に対し、合同で日本語によるグループワークを行った。本稿は、第10期生に対して行われたグループワークの実践、グループワーク終了時に行われたアンケートによる学生の評価、実践および学生の評価を踏まえた上での改善案をまとめたものである。

### 1. はじめに

日韓共同理工系学部留学生事業（以下、日韓プログラム）は2000年度から日本全国の国立大学<sup>(1)</sup>で行われ、2000年度から2009年度にかけ第1次事業（10年）が行われた。そして、2010年度からは第2次事業（10年）が始まった。

日韓プログラムでは、韓国ソウルのキョンヒ大学において6か月の予備教育を行った後、各大学入学前の6か月を日本における予備教育期間として、各大学の留学生センターなどが中心となって日本語教育や専門教育を行っている。埼玉大学、千葉大学、電気通信大学、東京工業大学、東京農工大学、横浜国立大学の6大学は、予備教育期間中の専門教育（英語、数学、物理、化学、生物）について、このプログラム開始時（2000年度）より、駿台教育研究所と共同で開発した教材を用いた教育を実施し、また、6大学の学生を集めて専門科目のスクーリングを行ってきた。

しかし、高校卒業後、6か月間韓国での厳しい予備教育を受けてからの来日であること、大学への入学が約束されていることなど、他のプログラムの予備教育とは異なる特徴を備えていることから、一部の学生には、日本の大学での予備教育期間中に学習意欲が高まらない、日本語力が伸びないなど様々な問題が起こっている。

これらの問題を緩和することを目的とし、また、第2次事業に向けて、6大学合同で行ってきたスクーリングを有効に活用するために、2009年度後期に日本語予備教育を受けた第10期生を対象に、専門科目のスクーリングの時間を使って日本語によるグループワークを試みた。本稿は、第10期生に対して行われたグループワークの実践とそれに対する学生の評価、そして、実践および学生の評価をもとに考えた改善案をまとめたものである。

### 2. 日本語によるグループワーク

#### 2.1 目的

日本語によるグループワークでは次の4つを目的とした。

- (1) 自らテーマを設定し、それについて調べ、結論を出すという「大学での学び」を大学入学前に体験する。
- (2) 学習した日本語を使って、日本人にインタビューをし、日本や日本人について知る。
- (3) 大学入学後にグループ学習や実験などで必要になる協同的な活動を体験する。
- (4) これらの活動を通して、学習一般に対する意欲の喚起を図る。

## 2.2 参加学生

2009年10月から2010年3月まで、各大学の留学生センターなどで予備教育を受けた第10期生28名（埼玉大学2名、千葉大学5名、電気通信大学4名、東京工業大学7名、東京農工大学4名、横浜国立大学6名）である。

## 2.3 準備

28名を7グループ（4名ずつ）に分け、かつ、それぞれのグループに同じようなことに興味を持つ学生を配置するために、11月初旬に各大学で調査を行った。

調査は、まず、「日本へ来て、驚いたこと、変だと思ったこと、嫌だと思ったこと、すばらしいと思ったこと」を、合わせて30書き、次に「前述した30の中から特に考えてみたい項目を3つ選び、その理由を書く」というものである。

学生から提出された回答から、「テレビ番組・文化」「インターネットが遅い」「自転車・原付の利用」「物価・交通機関の料金の高さ」「高い建物が少ない・小さい家が多い」「食べ物」「日本の規則及び規則の遵守」の7つのテーマにまとめることができた。そして、調査の回答から、それらのテーマに興味があると判断された学生を7グループに分けた。その際、可能な限り、同じ大学の学生が同じグループにならないように配慮した。

## 2.4 活動

活動は、第1回（2009年11月25日）、第2回（2009年12月14日）、第3回（2010年1月8日）、第4回（2010年1月19日）の4回行った。各回とも構成は、前半の活動（50分）、休憩（10分）、後半の活動（50分）である。第1回から第3回までは持ち回りで6つの大学から3、4名の教員が指導を行うために参加した。第4回は5つの大学の教員が参加して、学生の発表を聞き、評価を行った。

### 2.4.1 第1回（2009年11月25日）

まず、活動の目的・概要の説明を行った（資料1に学生に配布したグループ活動の概要と流れを示した）。次に門倉（横浜国立大学）より具体的なテーマを決めるために有効な方法として、「マンダラの図」<sup>(2)</sup>について説明があった。その後、グループごとに「マンダラの図」に書き込んだ（図1に実際の例を示した）。その「マンダラの図」を見て具体的なテーマや調査対象について検討した。そして、どのようなテーマを取り上げるかグル

ープごとに発表した。最後に、グループごとに作業報告書に「今日、行った活動」「次回までにすること」「次回の活動ですること」を記入し、提出した。

平均視聴実態 —平均視聴時間 —平均視聴時間帯	芸能番組が多い	番組中で人を殴ることが多い
女性ゲストの役割	テーマ TV 番組について 日韓比較	番組の水準が高い
チャンネルが多い —種類による分別	MC がよくさげぶ	インタビューする相手 日本人学生

図1 マンダラの図 (あるグループが書いたマンダラの図の一部をサンプルとして提示)

#### 2.4.2 第2回 (2009年12月14日)

グループごとに持ち寄ったインタビューの結果を分析した。そして、インタビューをして、どのようなことがわかったか、どのように考えたかなど、グループごとに発表した。最後に、グループごとに第1回と同様に作業報告書に記入し、提出した。発表のために必要な作業を冬休み中も進めるように指示した。

#### 2.4.3 第3回 (2010年1月8日)

最初に教員がパワーポイントの作成方法やどのような内容を載せるかを説明した。そして、グループごとにパワーポイントの作成など発表の準備を行った。最後に、グループごとに第1回と同様に作業報告書に記入し、提出した。

#### 2.4.4 第4回 (2010年1月19日)

各グループの発表 (発表時間は1グループにつき10分) を行った。聞いている学生はそれぞれのグループに対して評価をシートに記入した。発表終了後、まず、学生が一番良かったグループに対し投票した。学生の投票結果を参考にし、教員が1位から3位までのグループを選んだ。最後に、表彰式を行い、1位から3位のグループについて、教員が評価を述べた。1位から3位のグループに対しては賞品を、他の4グループには参加賞を贈った。

### 3. グループワークに対する学生の評価

グループ活動第4回（最終回）の発表終了後に、グループワークに対する評価を問うアンケート（無記名、「強く思う（5）」から「全くそう思わない（1）」の5件法）を実施した（資料2参照）。当日欠席者5名からも後日回収を行い、最終的に28名分の回答を得た。

アンケートでは、グループワークで行った個別の活動が役に立ったと思うかや、活動への感想をたずねた。グループワーク活動を全体として肯定的に評価する学生とそうでない学生とで回答傾向が異なると考えられたため、肯定的印象を持つ学生群と否定的印象を持つ学生群に分けて特徴を分析することとした。本稿では、アンケートの2と6の質問に対する回答の分析結果を掲載した。

群分けに際しては、「来年もスクーリングのとき、6つの大学で一緒にするこの活動を続けたらいいと思いますか。」を活動全体に対する印象・評価を表す質問とし、この質問への回答によって高評価群と低評価群に分けた。「高評価群」は質問に対して5（強く思う：8名）と4（4名）と回答した学生12名、「低評価群」は質問に対して1（全くそう思わない：8名）と2（2名）と回答した学生10名であり、中間である3を選んだ6名はその後の分析から除外した。

表1 グループワークへの印象の高低による評価の違い

	高評価群 (n=12)		低評価群 (n=10)		t値
	平均	SD	平均	SD	
どの活動が自分にとって役に立ったと思いますか。					
(1) 発表のテーマを決めたこと。	2.83	1.34	2.70	1.49	0.22
(2) 日本人にインタビューしたこと。	3.75	1.29	2.70	1.34	1.87 <sup>+</sup>
(3) グループで話し合いをしたこと。	3.17	1.40	3.00	1.41	0.28
(4) 発表資料(パワーポイント(PPT))を作ったこと。	2.83	1.27	2.70	1.70	0.21
(5) 発表をしたこと。	3.17	1.11	3.00	1.56	0.29
(6) 他の大学の学生と一緒に活動したこと。	3.50	1.17	3.00	1.25	0.97
活動への感想を教えてください。					
(1) 楽しかった。	3.08	1.44	1.80	0.79	2.64 <sup>*</sup>
(2) 日本について知ることができた。	3.83	1.11	2.60	1.26	2.43 <sup>*</sup>
(3) 他の大学の学生に会えてよかった。	3.92	1.00	3.20	1.14	1.58
(4) いつも(大学)と違う場所に行けてよかった。	2.92	1.78	1.50	0.71	2.53 <sup>*</sup>
(5) 大学に入ってから役に立つと思った。	2.75	1.14	1.90	1.29	1.64
(6) やりたくなかった。	3.00	1.28	3.60	1.71	-0.94

<sup>+</sup>p<.10, <sup>\*</sup>p<.05

$t$ 検定により印象の高低による評価の違いを検討した結果、どの活動が役に立ったと思うかについては、高評価群が低評価群と比べて、「(2)日本人にインタビューしたこと」が自分にとって役に立ったと考える傾向がみられた。活動への感想については、高評価群のほうが「(1)楽しかった」「(2)日本について知ることができた」「(4)いつもと違う場所に行けてよかった」と考えたことが示された。これらの結果により、今回実施したグループワーク活動を評価する学生は、日本人や日本社会を知る活動、大学から外に出て学習する点を評価していることが分かる。一方で、グループワーク活動を評価しない学生は、グループワークの楽しさが感じられず、所属大学から離れた場所で活動することについて否定的であることが示された。

#### 4. 次年度への改善

今年度のグループワークでは、「具体的なテーマを見つけることが難しい」「学生が協働的な活動に慣れていないため、協力して1つのテーマに向かって活動することが難しい」という問題点が見られた。また、活動内容に対して、活動時間が短かった。このような問題点と学生からの評価を総合し、今後の実施に向けて、次のように改善案を考えた。

- (1) 教員側から日本に関わる具体的なテーマをグループの数だけ提示し、学生が興味のあるテーマを選んで、グループを組む。その際、異なった大学の学生でグループが構成されるように配置する。
- (2) 日本人に対するインタビューを円滑に行うため、質問項目の例を教員側から予め示すなど、短時間で質問を決められるようにする。
- (3) 今年度と同じ回数(4回)で活動を行った場合の各回の活動についてより具体的に示す。それらの改善点をふまえた授業は次のようになる。

事前準備：教員側から具体的なテーマを示し、学生が選び、それによってグループ分けを行う。

第1回：活動の目的、活動全体の流れなどをより明示的に示す。どのような日本人にインタビューをするか決め、インタビューの質問を検討する。次回までに全員が日本人に対してインタビューをし、それをまとめてくる。

第2回：それぞれがしてきたインタビューの結果を検討し、それぞれのテーマに対して日本人がどのように考えているかをまとめ、それに対する自分たちの意見を加える。

第3回：発表用のパワーポイントの作成など、発表の準備を行う。

第4回：グループごとに発表を行う。

#### 5. まとめ

各大学入学前の6か月間に行われる日本での予備教育期間は、日本に居るにもかかわらず、日本人との接触は限られ、学習した日本語を使用して、活動をする機会は十分とは言えない。意図的に日本語を使用して活動をする機会をつくり、学生の学習意欲を喚起する

ことが必要である。今回の活動では、学習意欲の高い学生には、日本人へのインタビューを通じて日本社会や日本を知る機会となった。当初の目的のひとつは達成できたが、「大学での学び」と協働的な活動の体験という点では不十分であった。グループワークに費やす時間には限りがあるが、それらの中で目的を達成できるように改善を行いたい。

また、今回のグループワークを共同で指導することによって、この共同プログラムを実施してきた6大学の担当教員の中の所属大学を超えたコンソーシアムの連携がいっそう深まったことも、このグループワークの成果のひとつであることを付記しておきたい。

#### 注

- (1) 2010年度に学部に入学者の第10期生が配置された大学は23大学である。
- (2) 「マンダラの図」とは、9つの升目を作り、その中央の升目にテーマを書き、残りの8つの升目を連想的に埋めていくものである。テーマを膨らませるために用いられる。

#### 参考文献

- 安龍洙他（2007）日韓理工系学部留学生事業に対する留学生自身による中間評価と今後の課題、茨城大学留学生センター紀要、5、pp.11-30
- 斉藤美智子他（2005）日韓共同事業による韓国人留学生の日本語追跡調査－1～3期生の大学入学後の状況－、岡山大学留学生センター紀要、12、pp.41-58
- 佐藤尚子・東田喜輔（2007）千葉大学における日韓共同理工系学部留学生事業修了者に対する調査報告－1期生から3期生を対象として－、国際教育、1、千葉大学国際教育センター、pp.67-78

\*本稿は、2010年7月31日2010ICJLE（2010世界日本語教育大会）で口頭発表を行った「日韓共同理工系学部留学生に対する日本語グループワークの実践」（佐藤尚子・馬場真知子・佐藤礼子・門倉正美・金井勇人・笠原（竹田）ゆう子）の内容に補足・修正を加えたものである。

資料1 第1回のスクーリングで学生に配布したグループワークの概要と流れ

2009年11月25日

日韓スクーリング グループワークの概要と流れ

今年度は、スクーリングの後半にグループワークを行います。

活動内容：日本に来て、驚いたこと、変だと思ったこと、嫌だと思ったこと、すばらしいと思ったことなどから、具体的なテーマをグループで決め、グループで話し合いや調査を行い、第4回（最終回）に各グループ10分の発表を行う。発表のために、パワーポイントを作る。

<優秀な発表（上位3グループ）には、賞品を授与します。>

事前準備：各大学で、「日本に来て、驚いたこと、変だと思ったこと、嫌だと思ったこと、すばらしいと思ったこと」をシートに記入した。それをもとに、グループ分けを行った。

第1回（11月25日）：テーマや内容、作業、分担等の決定

作業手順の説明

テーマの決定、作業手順を決める、アンケート・インタビューの内容を決める。

アンケートの場合はシートを作成する。

誰がどの部分を調べるかを分担する。

作業報告書の提出

★取り上げるテーマについて日本人がどう考えているのかを調べなければならない。第2回までに日本人にアンケートまたはインタビューを必ず行う。また、日本人と接するアンケート・インタビューの活動は必ず全員が行う。

★テーマについて調べるべきポイントを決めて、ウェブや本、新聞、雑誌等で調べる。

第2回（12月14日）：アンケート、インタビューの分析、まとめ

各自が調べてきたことを報告し、全体の構成上の位置づけについて話し合う。

インタビューや調べが足りない部分については、第3回までにそれを行ってくる。

作業報告書の提出

第3回（1月8日）：まとめ作業

パワーポイントの構成や、プレゼンテーションの原稿をグループで作成する。

できなかった作業は冬休みにする。

作業報告書の提出

第4回（1月19日）：発表（各グループ10分）、評価、表彰式

発表は代表者ひとりとするか、複数であるかは、各グループで決める。

## グループワークのアンケート

これまでにしてきた「グループワーク」について教えてください（専門科目については聞きません）。質問を読んで、あてはまる数字を一つ選んで、○してください。

☆ 何回参加しましたか。参加した回に○を、休んだ回に×を書いてください。

[ 第1回(11/25) ・ 第2回(12/14) ・ 第3回(1/8) ・ 第4回(1/19) ]

1. 準備や発表をして、何が難しかったですか。	難しく なかった	.	.	.	とても難 しかった
(1) 発表のテーマを決めたこと。	1	2	3	4	5
(2) 日本人にインタビューしたこと。	1	2	3	4	5
(3) グループで話し合いをしたこと。	1	2	3	4	5
(4) 発表資料（パワーポイント(PPT)）を作ったこと。	1	2	3	4	5
(5) 発表をしたこと。	1	2	3	4	5
(6) 他の大学の学生と一緒に活動したこと。	1	2	3	4	5
(7) その他に難しかったと思うことを自由に書いてください。					

2. どの活動が自分にとって役に立ったと思いますか。	役に立 たなかった	.	.	.	とても役 に立 った
(1) 発表のテーマを決めたこと。	1	2	3	4	5
(2) 日本人にインタビューしたこと。	1	2	3	4	5
(3) グループで話し合いをしたこと。	1	2	3	4	5
(4) 発表資料（パワーポイント(PPT)）を作ったこと。	1	2	3	4	5
(5) 発表をしたこと。	1	2	3	4	5
(6) 他の大学の学生と一緒に活動したこと。	1	2	3	4	5
(7) その他に役に立ったと思うことを自由に書いてください。					

3. どのようにしたらもっと上手に発表ができたと思いますか。自分の発表を思い出して教えてください。

4. グループ活動の時間は十分あったと思いますか。 →	みじか 短かった	ちょうど いい			なが 長かった
	1	2	3	4	5

なんかい 何回くらいがいいと思いますか (準備は3回、発表が1回ありました)。

5. 先生の指導は十分でしたか。 → → → →	じゅうぶん 十分では なかった	.	.	.	じゅうぶん 十分 だった
	1	2	3	4	5

なに 何を (どのように) 教えてほしかったですか。自由に書いてください。

6. 活動への感想を教えてください。	まったく おも 思わない	.	.	.	つよ 強く おも 思う
(1) 楽しかった。	1	2	3	4	5
(2) 日本について知ることができた。	1	2	3	4	5
(3) 他の大学の学生に会えてよかった。	1	2	3	4	5
(4) いつも (大学) と違う場所に行けてよかった。	1	2	3	4	5
(5) 大学に入ってから役に立つと思った。	1	2	3	4	5
(6) やりたくなかった。	1	2	3	4	5

7. 来年もスクーリングのとき、6つの大学と一緒にこの活動を続けたいと思いますか。 → → → →	まったく おも 思わない	.	.	.	つよ 強く おも 思う
	1	2	3	4	5

8. どのようにしたら この活動がよくなると思いますか。自由に書いてください。

9. 今回の活動についての感想を自由に書いてください。

